

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	工学部総合工学科建築学コース
学年(出発時)	3年
大学名	ハイデルベルク大学
国	ドイツ
留学期間	2021年9月～2022年8月
派遣先での身分	留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	図書館
11:00	図書館
12:00	タンデム
13:00	タンデム
14:00	昼食
15:00	授業
16:00	↓
17:00	↓
18:00	
19:00	
20:00	夕食
21:00	
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Deutschkurs A2.1(秋季講習)	20	ECTS 8	ドイツ語	秋季講習、短いプレゼン、筆記試験
Deutschkurs A2.2(秋冬学期)	3	ECTS 6	ドイツ語	オンライン、短いプレゼン、オンライン試験
Deutschkurs B1.1(春夏学期)	3	ECTS 6	ドイツ語	最後に筆記試験
die deutsche Geschichte B2(秋冬学期)	1.5	ECTS 4	ドイツ語	ドイツの歴史についての授業、対面でパソコンで試験
Kreatives Schreiben2 B1(春学期)	3	ECTS 8	ドイツ語	ドイツ語で詩や短い物語を描く授業、筆記試験
Bildende Kunst B2(春夏学期)	1.5	ECTS 4	ドイツ語	絵画についての授業、プレゼン
Textverstehen A(春夏学期)	1.5	LP 4	ドイツ語	文章を読む力を身につける授業、筆記試験
Wortschatz A(春夏学期)	1.5	LP 4	ドイツ語	語彙力を増やす授業、筆記試験
Byzantinische Archiologie(秋冬学期)	1.5	聴講(LP2)	ドイツ語	ビザンチン考古学についての授業(主に歴史)
Pilgerheiligtümer(春夏学期)	1.5	聴講(LP2)	ドイツ語	ビザンチン考古学についての授業(主に建築)

大学のサポート	
チューターの有無	有り
チューターのサポート内容	寮の鍵を受け取る場所と寮まで案内してくれました。
語学コースの有無	有り
コース名、料金、期間等	Allgemeinsprachlicher Deutschkurs、無料、9月の1ヶ月と、冬学期、夏学期

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	Ilse-Krall-Straße 47
部屋タイプ	ルームシェア
ルームメイト(国籍)	ドイツ人2人、イタリア人1人
室内設備	ベット、机、クローゼット、本棚、暖房
共用施設	キッチン、トイレ、お風呂
インターネット設備	ルームメイトと共有(月10ユーロ)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	路面電車か自転車で20分
アルバイトの有無	有り
アルバイトの内容	日本人の方が経営しているカフェでの接客

渡航	
Visaの種類	学生ビザ
Visa申請先	外国人局
Visa取得にかかった日数	1ヶ月
Visa取得にかかった費用	100ユーロ
Visa取得方法、提出書類等	ビザ申請書、奨学金受給証明書(英語)、閉鎖口座の証明書、パスポートの写し、AOK(健康保険)の証明書、入学許可証、住民登録証、証明写真
留学先大学の最寄り空港までの経路	ハイデルベルク中央駅からフランクフルトと空港まで、FlixBusで約1時間
渡航費用	20万(往復)
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	1年留年有
有る場合、その理由	3年後期にゼミ配属があり、オンラインでは参加不可だったため。
就職活動開始時期	2022年8月(インターンシップなど含めて)
帰国後の進路	進学

留学にかかった費用	
現地通貨=日本円(約)	1ユーロ=130~135円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	月109ユーロ(AOK)
学費(教科書代や語学コース授業料等)	100ユーロ
宿舍費(月額)	211ユーロ
光熱費(月額)	宿舍費込
食費(月額)	150~200ユーロ
その他	WiFi 10ユーロ/月、CEZ 14ユーロ/3ヶ月に一回
留学期間中にかかった費用の合計	約1000ユーロ(130万円)

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

大学一年生の時に母から何気なく「大学3年生くらいにドイツに留学できたら良いね」と言われ、その時は漠然といつか留学できたらいいなと思い、第二言語でドイツ語を選びました。そして大学2年生の冬、コロナで大学に行けず、自分に向き合う時間が増え、自分のしたいことはなんだろうと考えている時、留学のことが頭によぎりました。そして、三重大学の国際交流チームのホームページで、同じ学科の先輩が留学した報告書を見つけて読んでみると、「留学したいと思うなら行動あるのみ」と書かれていて、その言葉にすごく背中を押され、留学したいという気持ちが確信に変わりました。そこから近い将来について真剣に考え、担任の先生にも相談し、申し込みました。そして、コロナウイルスの影響で、行けるかどうかわからないまま3年前期を過ごし、出発する約1ヶ月前に渡航許可がおり、留学させてもらうことができました。正直行けないかもしれないと思っていたところが大きく、準備の大半を留学に行けることがわかってから行い、とてもバタバタしていました。行く前は実家暮らしで、海外経験がなかったので、初めてのことがばかりで不安でしたが、着いてからは見るもの、聞くこと、起こること、全てが新鮮で、夢のようで、あまり実感湧かず、寂しさはありませんでした。9月の語学学校では、何を話しているのかわからない時も多々あり、もっと勉強しておけば良かったと思いました。9月に夏季講習で語学学校に行って、少し耳が慣れて聞き取れることも増えてきたと思っていましたが、10月からの大学の授業はやはりレベルが全然違い、ノートを取るのに精一杯でした。しかし幸いなことにハイデルベルク大学も三重大学と同じmoodleを使っていて、そこに先生が授業の内容を載せてくれたので、復習がしやすかったです。またハイデルベルク大学の日本学科の子とタンデムをしてドイツ語を話す練習や聞く練習をして、最初のうちはうまく話すことはできませんでしたが、自分の思っていることを自分の相手に伝えられた時はすごく嬉しかったです。その喜びがドイツ語をもっと学びたいというモチベーションに変わって、楽しみながら頑張ることができました。留学中に一度、ハイデルベルクで事件があり、一人の学生がなくなりました。その追悼式が大学の近くの教会で行われ、その中継映像が、学生食堂などで流され、多くのハイデルベルク大学の学生と一緒に追悼していました。今回の事件で、自分も自分の身近な人も被害を受けた人はいませんが、それだからといってよかったですらでは終わらせてはいけなと思いました。実際に起きる前は、ハイデルベルクはドイツの中でも治安の良い街なので安心し切っていました。この事件は宗教的、人種的な理由はなかったとされていますが、以前ドイツの違う場所でテロを経験された方から、ユダヤ人を狙った事件があった話を聞いて、外国にいるということはそういった思想のような面でも危険が伴う可能性があるのだと学びました。恥ずかしながら、私は歴史の知識が少ないため、ハイデルベルクで留学生向けのドイツの歴史の授業を履修しましたが、その事件から改めて学んでおくべきだと感じ、それは自分の身を守るため事にもつながると思いました。また、私がパリに行った時に、ヴェルサイユ宮殿で、ロシアのウクライナ侵攻に関してのEU首脳会議が行われていたため、中に入るができませんでした。その他にもパリの街でもドイツの街でもウクライナ国旗がいろんな場所で掲げられていて、それを見る度にロシアとウクライナについて考えたりしたので、日本にいた時よりもヨーロッパの情勢を身近に感じました。もし日本にいたら今よりも他人事にできていたと思うので、とても恥ずかしいと思いました。この経験をきっかけにまだまだ知らなければいけないことが沢山あるし、知りたいと思うようになりました。留学に来て、このような経験をして、様々な人と色々なことを話して、自分の専門分野はもちろん、他の分野にも幅広く興味を持つようになりました。半年経った時に、私は夏から行っていましたが、春から来た子が同じクラス、または私より上のクラスにいることを知り、少しだけ落ち込みました。その子たちはドイツ語学科で、もちろん自分よりもドイツ語を勉強して努力してきているということは承知していましたが、そこで開き直ってしまったら成長できないのではないかと、もっと頑張れた部分があったのではないかと感情が時々生まれました。しかし人と比較することでモチベーションに変えるのは良くても、比較しすぎてネガティブになってしまうことはよくないと思うので、今は残りの期間、自分のできることを、すべきことにベストを尽くせるように意識しようと考え方を変えました。留学に来る前、私にとってドイツ語は第二言語であり、語学をメインに学ぶというのが新鮮でした。でも今は、授業を受けて全部は理解できなくてもテストを受けて単位を取ることが出来るようになって、語学を学ぶ楽しさがわかるようになりました。そして、母国語がドイツ語じゃない人たちとも、ドイツ語でコミュニケーションができて、人と人を結んでくれるという語学を学ぶ喜びを感じました。しかし、語学だけではなく、何かにチャレンジする勇気や海外に対するイメージなど、自分の弱かった部分が強くなった気がしています。こんなにも多くの外国の人と知り合えて、会話ができて楽しかったのは人生で初めてだったので、留学を支援してくれた全ての人に本当に感謝しています。

今後留学する人へのアドバイス

まず、感想のはじめに書いたように、私は先輩のこの報告書を読み、背中を押され、留学に踏み出すきっかけになりました。なので、今行こうか迷っているという方には、同じ言葉をかけたいです。少しでもチャンスがあるなら、何もせず諦めるのではなくて、まず踏み出して欲しいです。先輩のお言葉の通り、「留学したいなら行動あるのみ」です。私は、留学に行ったら一番変わったことは考え方は、今までは、何事も悲観的に考える癖がありましたが、留学に行ったら、何が起ころうとも経験だから、なんでもチャレンジしてみようという考えに変わりました。なので、今この言葉がより心に響くので、伝えたいと思います。

また、私はドイツで、たくさん美術館に行き、ピカソやゴッホなど多くの有名な絵画を観ることが出来ました。春休み期間に、フランスやスイスなどドイツ以外の国に行きました。パリへはハイデルベルクから電車で20分のところにあるマンハイムという場所から、ドイツの新幹線で三時間ほどで行くことができ、早めにチケットを取っておくと、往復で約80ユーロほどでした。そして、EU圏に住んでいる26歳以下または学生は、美術館など無料で入れるところがほとんどでした。(例:ルーブル美術館、オルセー美術館、凱旋門、パンテオン、ヴェルサイユ宮殿など)本当に貴重な経験をとてもいい方法でさせてもらえたので、今後、ヨーロッパへ留学される方は興味があれば、是非この留学生の特権を活かして訪れて欲しいと思います。

ハイデルベルクにいても、今までできなかったことをたくさん経験できました。日本でも経験したことがなくて初めて経験できたのは、オペラを観ることでした。そこまで大きな建物ではないですがとても素敵なホールで、ハイデルベルクの学生ということで、無料で一番前の席のチケットを取ることができました。作品は「蝶々夫人」で、言語はイタリア語、字幕はドイツ語でした。歌いながら演技することだけでもすごいのに、声量の大きさとその継続力に驚き、とても感動しました。ハイデルベルク以外にもオペラを見られるところはたくさんあり、日本よりも値段も安く見られると聞いたので、帰国する前に他の場所でも観てみたいと思っていましたが、結局行けなかったのが、今後行く方におすすめだと思います。他にもオーストリア、イタリア、ベルギー、スペインなど、本当に様々な国へ行くことの時間やお金などのハードルが低く感じました。ヨーロッパの中心にあるドイツだからこそだと思うので、ヨーロッパの国に興味のある方へ、おすすめだと思いました。

報告書記入日

2022年9月1日